

評価委員：小西幸子委員 小川美佐子委員 則武一光委員 竹田都子委員 川原崎武委員

評価時期 令和5年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について<健康で明るい生活を送るための基礎力を育む>

重点目標2について<自ら環境に関わりながら、遊ぶことの楽しさを十分に

味わえるようにする。(トライ！チャレンジ！月二っ子の育成)>

重点目標については、3点とも十分な成果をあげていると考えており、保護者の立場から感謝している。

重点目標3について<幼児の生活や心情を豊かにし、思いやりのあるやさしい心を育む>

幼稚園の子どもたちは、実のなる物が好きだと感じる。コロナ禍により幼稚園で食べられることは減ったが、一本のオクラを大切に持ち帰り、どう調理するかと考えて料理し、子どもも喜んで食べるため、本当によい活動である。

2 今後の改善に向けた意見

○学校評価アンケートは保護者の目線から地域との関わりを評価しているが、地域の立場からの意見では関わりが減っていると受け止められている。地域あつての学校、学校あつての地域なので、つながりを大切にしてほしい。今年は2年延期されていた本祭りが行われるため、地域と何も関わりをもてるようにしてほしい。

○全体評価については、「幼稚園は家庭への情報提供に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている」という設問が、全項目の中で唯一「あまりあてはまらない」という回答が目立った。強いネガティブな声ではないと理解しているが、ルクミーの導入など ICT 活用が進んでいるからこそ、先生とのリアルコミュニケーションの重要性が高まってくるのではないかと。

3 その他の意見

コロナ禍のため、評議員や地域の方が学校の様子を見る機会が減っている。マスクも外すことができるようになっていくので、これからは変わってくると期待している。また、地域の方にも学校の考えが分かるよう、情報発信の仕方を工夫してほしい。